

5月



2023年

みやま

第300号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



令和5年6月24日に平川病院主催の 摂食嚥下（えんげ）講演会を開催します

院長 平川 淳一

住み慣れた自宅で元気に最後まで暮らしていきたいというのは誰もが希望することだと思います。しかし、年をとると歯が悪くなって義歯やインプラントという方もいらっしゃるかと思います。しかし、歯があれば食べられるかということそうでもないのです。口を開けて、食べ物を入れて、モグモグ噛んで、食べ物を細かくして、飲み込みやすいように一塊（食塊 しょくかい）にして、ゴクンと飲み込みますが、このとき肺の入り口にある気管の入り口にあるフタ（喉頭蓋 こうとうがい）が反射で閉じないと食べ物が肺に入ってしまいます。この1連の動きができないと嚥下（えんげ）ができず、高齢者によく起こる誤嚥性肺炎を起こしてしまいます。水のようにサラサラしている物は通過スピードが速いため、誤嚥しやすくなります。一方、ドロドロし過ぎるといつまでも喉に残ってしまうため、時間がたってから誤嚥をすることになります。よく介護ショップで「トロミ」を付ける粉を売っていますが、このような理由で介護の現場で使用されます。嚥下については耳鼻咽喉科や神経内科などの医科がやっていますが、歯科では我が国で初めて嚥下内視鏡を行ったことで有名な植田 耕一郎先生（日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授）が長年取り組んでこられました。平川病院は、南多摩医療圏の東京都認知症疾患センターを担ってきましたが、嚥下の問題は認知症の患者さんに多く見られるため、植田教授の指導を受けながら食の改善に実績を上げてきました。また、嚥下の訓練には言語聴覚士や理学療法士、作業療法士等の協働が必須です。平川病院では、来年4月を目途に植田先生を迎えて多職種チームで行う「摂食嚥下のセンター」を開設する計画を進めています。今回はその必要性を含め、市民の皆様幅広くご理解をいただくために植田先生の講演会を企画しました。ご興味のある方は是非ご参加いただきたく、よろしくお願いします。

摂食嚥下 講演会

住み慣れた町で生涯暮らす食支援 ～おいしく、楽しく、美しく～

参加費
無料

講師

植田 耕一郎先生

日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授

令和5年6月24日(土) 15時～16時



詳細ページのQRコード



詳細は当院のホームページ
「お知らせ」ご確認ください。

【表紙】院長あいさつ 【P2】日本独自のパチンコ文化について 【P3】認知症疾患医療センターの動き
【P4】地域生活支援室より 【P5】検査科から 【P6】退院時アンケートにみる平川病院の魅力
【P7】新入職者オリエンテーション開催 【P8】タフマンVを頂きました／病棟師長交替のお知らせ

日本独自のパチンコ文化について

ネット・ゲーム嗜癖外来委員会 平川病院 副院長 精神科 宮田 久嗣

今回は、スピンオフとして、少し肩の凝らない話をしようと思います。日本で生活していると、パチンコ店は日常風景の一部として違和感を感じないと思います。しかし、海外の人達にとっては、信じられない光景のようです。つまり、海外の人達にとっては、パチンコ店は一種のカジノなのです。たしかに、パチンコ店にあるパチンコ台（パチンコ玉がチューリップに入ると当たりになるタイプ）は、カジノのピンボール・マシンとコンセプトは同じですし、パチスロ（レバーをひくと、数種類の図柄が勢いよく回って、すべて同じ図柄がそろって当たりのタイプ）はスロット・マシンと同じコンセプトです。このような遊技場が、駅前の商店街や繁華街に普通にあって、老若男女が自由に遊べる状況というのは信じられないようです。海外の人達にとっては、カジノとは日常生活からは切り離された特別な場所なのです。日本で最初のパチンコ店が

できたのは、大正時代末期の露天商からとわかれていて、その後、全国の津々浦々まで広がった日本独自の娯楽文化といえます。話はかわりますが、日本のギャンブル嗜癖者の有病率は、世界でも高いほうです。一番高いとする報告もあります。その原因はよくわかっていませんが、パチンコ店が至る所にあって、気軽に遊べるからだという説があります。その一方で、パチンコ店はあまりにも生活の一部になっているので、違和感なく安い金で遊べて、カジノのように全財産をすってしまう危険なギャンブル行為が生じるのを防いでいるという説もあります。皆さんはどのように考えられるでしょうか。ひとつ言えることは、ギャンブル嗜癖は、まだよくわからないことが多い領域であるということです。

日本独自の娯楽産業：パチンコ

- ✓ 大正時代末期の露店営業から始まり、全国の津々浦々まで広がり、若者から高齢者まで、気軽に立ち寄れる日本独自の娯楽文化。
- ✓ 市場規模は、パチンコが21兆7160億円、競馬、競輪、宝くじなどが6兆870億円で、合計約27兆8千億円（2017年）。



パチンコ

- ✓ 知識・技術あまり必要ない
- ✓ 手軽に遊べる



パチスロ

- ✓ ギャンブル性が高い
- ✓ 知識や技術が必要
- ✓ プレーヤーの意思でリールを止めるのがパチスロ。自動的に止まるのがスロットマシン（カジノなどにある）。



事例検討会 やってます！

認知症疾患医療センターの動き

南多摩医療認知症疾患医療センター センター長代理 精神保健福祉士 椎名 貴恵

認知症疾患医療センターでは、毎月第1月曜日 18:30~20:00に『事例検討会～認知症について他職種で考える会～』を開催しています。

どんなことをしているのかというと、みなさまから話題を提供していただくこともあり、私たちセンターの職員がみなさんと話し合ってみたいな、と思う話題を提供することもあり、それらを元にグループワークをすることもあります。

ケアマネジャーはじめ、介護保険の事業所の職員の方、高齢者あんしん相談センターや市役所の職員の方、薬剤師、医師、歯科医師、医療機関のソーシャルワーカー等のみなさまが、20~30名くらい参加してくださっています。

コロナ禍以前は、JR八王子駅前の学園都市センターの学習室を会場に、みなさまと顔を合わせて話し合いができることが楽しみでもあったのですが、コロナ禍以降の2020年3月から、やむなく中止、2020年11月からオンラインで再開しました。

「こんなことで困っている」「いまさらこんなこと聞きづらいな・・・」というようなことでも気軽に話し合えたり、また、「これでうまくいった」という好事例をみなさんと共有したりすることで、みなさんの明日からの仕事に少しでもお役に立てれば、と思いつけています。

開催案内やお申し込み方法は、下記の平川病院のホームページをご確認ください。開催後の簡単なレポートも載っているのでぜひ、チェックしてみてください。

①



① 平川病院ホームページのトップページで下にスクロールして、認知症疾患医療センターのバナーをクリック



② イベント新着お知らせから、参加したい開催日のお知らせをクリック

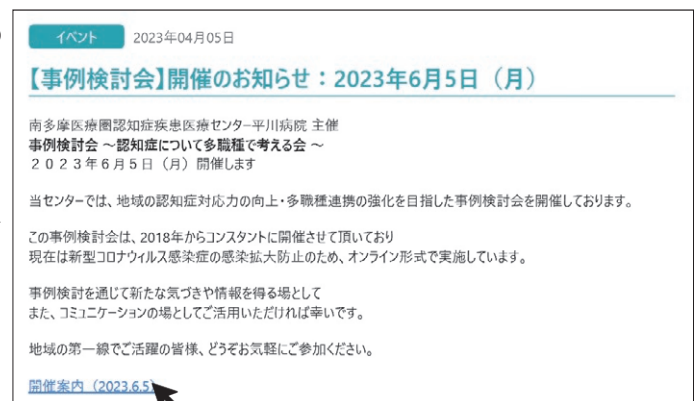


③ 開催案内のリンクをクリックすると案内チラシをご覧ください。

②



③



発達障害専門プログラムに繋がるまで ～ディケアでの工夫～

地域生活支援室より

地域生活支援科 公認心理師 山崎 恵莉菜

発達障害専門プログラムは、大きく分けて3つの経路から繋がる人が多いです。1つは既に他の医療機関に通院しており、より専門的な治療を希望する方、2つ目は自らインターネットを使って調べて来られる方、3つ目はハローワークや障害者職業センターなど就労支援施設から紹介を受けて来られる方です。発達障害専門プログラムの存在を知り、興味を持って自ら参加を希望されている方もいますが、担当医師や家族に勧められて参加される方もいます。周囲に勧められて参加される方の中には、自分にとって本当に必要なプログラムなのか、などと納得のいかなさを抱えているため、中々積極的な参加が難しい方もいらっしゃいます。

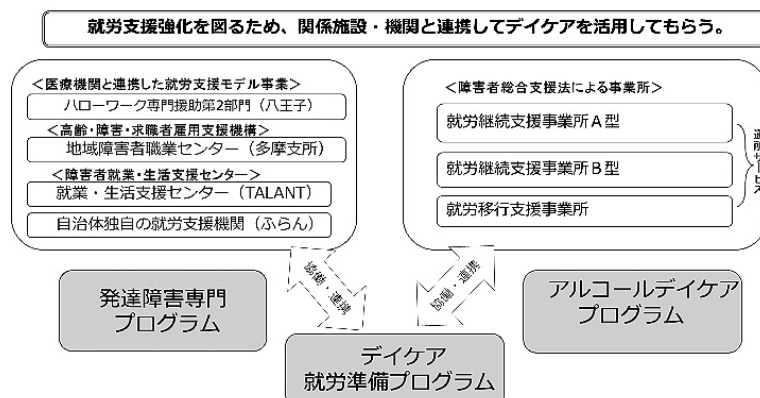
そのため、できる限り事前にご本人と面談をして発達障害専門プログラムに参加する目的を共有するようにしています。中でも多いのは、就労や復職、復学をするためにコミュニケーションの練習をしたいといったことや、不安や怒りなど感情のコントロールを身に着けたいといったことです。また、仕事や人間関係でうまくいかなかった要因を探るために

も、自分にとって何が得意で何が苦手なのかを知りたいという方もいます。そもそも、自宅から出て活動することが少ない方は、通所場所の一環としてディケアを利用し、生活リズムの立て直しを目指す方もいます。

また、発達障害専門プログラムはコミュニケーションの練習をする場なので、集団の中に入ることに不安がある、緊張して発言が出来ないなど戸惑いがある方もいます。そういった方に向けて、午前中に「発達理解」というプログラムを設けています。ボードゲームやカードゲームなどを介して対人緊張の解消や発話量の増加を狙ったり、グループメンバーとの交流を図っています。また構成メンバーによっては、ゲームだけでなく、ワークを通して自分の障害特性について振り返る時間も設けています。このようにワンクッション置くことで、午後の発達障害専門プログラムにも取り組みやすくなっているようです。

実に様々な経路から専門プログラムに繋がっていますが、ご本人の状態や目的に合わせ工夫をしながら関わっていかれたらと思っていますので、ご利用お待ちしております。

地域関係機関との連携図



レントゲンで注意して頂きたい事

検査科から

中央検査科（放射線科） 主任 診療放射線技師 中津川 強

病院で受ける検査で代表的に知られており、みなさんも健康診断などで1度は受けたこともあると思われるくらいに普及しているレントゲン撮影ですが、受ける時に注意して頂きたい事を少しお話ししたいと思います。

まずはレントゲン撮影を受ける時の服装です。撮影する前にその検査部位によって着替えの対象となる人、ならない人がいます。着替えの必要性についてご質問を受ける事もあるため、ご説明いたします。

レントゲン（X線）では、X線が透過しやすいものは黒く写り透過にくいものは白く写ります。例えば空気を含んでいる肺は黒く写りますが、骨のように硬いものは透過しにくいので白く写ります。ボタンや金属のある服装のまま撮影してしまうと、撮影画像の上で白く写ってしまいそれが病気と重なると、病気を見落としてしまう可能性が出てしまい、早期に病気やケガを発見できなくなってしまう可能性があります。そのため透過しにくい服装の方には、検査着などに着替えていただく必要があるのです。ちなみにX線が

透過しにくい、つまりはX線写真に写りこみやすい服装としては、ボタンやビーズなどのプラスチック類が装飾されている物、ベルトやファスナー、キャミソールや下着などに金属類が付いている物、顔料を含めたプリントや刺繍のある厚手素材、カイロやエレキバンや厚手湿布、小さいロゴやワンポイントの刺繍も対象になる場合があります。

次は身につけている物ですが、撮影部位によって写りこんで影になってしまうことがあります。外した方が良い物は、ネックレス、指輪イヤリング、ベルト、時計、補聴器、めがね、腹巻やコルセット、カイロ、などです。女性の場合はヘアゴムのワンポイントやピン留めなども金属が含まれる場合がありますので、可能であればシンプルなゴムで髪を束ねておいていただくと安心かも知れません。さらに直接身につけずとも、ポケットに入れておくだけで写りこんでしまいますので、小銭入れやライターなどが入っていないか確認して頂ければと思います。



💡 例①写り込んだネックレスの画像



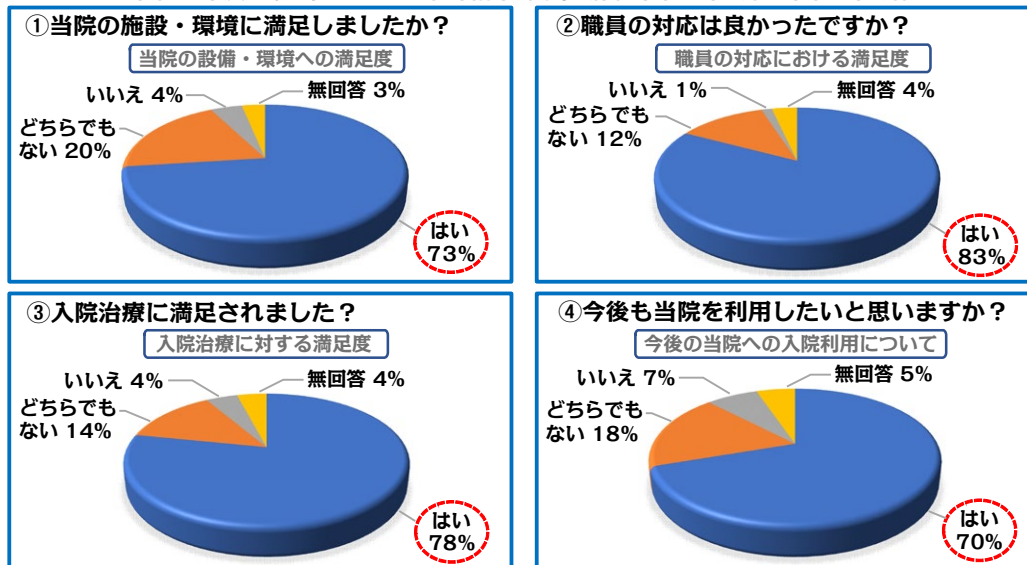
💡 例②写り込んだボタンの画像

退院時アンケートにみる平川病院の魅力 ～令和4年度を振り返って～

医療の質向上促進委員会 事務局 医事課長代理 本橋 伸介

当院では、退院される患者さんに対してアンケートを実施し、毎月当委員会にてフィードバックした上、検討しております。では、令和4年度に実施したアンケートにおける当院の設備、接遇、治療についてスポットをあててみましょう。

令和4年度 退院時アンケート集計結果 (対象期間: 令和4年4月～令和5年3月)



今回取り上げた4項目において7割を超える『はい』の回答を頂いています。特に、【職員の対応（接遇）における満足度】については『はい』の回答が83%という高い結果でした。ある企業が実施した、全国の病院における患者満足度調査の集計によると、病院スタッフの患者さんに対する接遇については平均して7割程度の満足にとどまるそうです。平均と比較すると当院は1割以上高く8割台半ばに迫る数字であり、平川病院は接遇に優れた病院であると言えると思います。当院が掲げる『患者さんの不安をとること』という理念が、職員一同の日頃の接遇にも込められているからではないでしょうか。

また、【入院治療に満足されましたか？】の回答は『はい』が78%であり、入院治療そのものに対して高い評価を得ています。それに対して、【今後も当院を利用したいと思いますか？】について『はい』が70%にとどまっているのはやや低いように思われますが、『どちらでもない』や『いいえ』回答の中には「再入院しないことが目標だから」「外来に通いたいけど自宅が遠方なので」と、敢えて『はい』を選ばなかった理由が書き添えられているコメントもありました。またアンケートの回答の中には「皆さんに親切にしてください回復しました。心より感謝申し上げます」といった感謝のお言葉を綴ってくださっているものも多くありました。今後も当委員会を中心に、何かあった時にまず受診したい、そしてまた受診したいと思われる病院を目指して、接遇のみならず病院の全ての面での患者満足度を向上させていくことに努めていきたいと思います。

新入職者オリエンテーション開催

病院教育委員会

今年も新入職者オリエンテーションが4月3・4日の二日間で開催されました。今回は39名の参加となり、そのうち約1/3が外国人スタッフです。久しぶりに、会場の6階ホールが並べた椅子でいっぱいになりました。

ここ数年、感染対策のため中止していたグループワークと実技がこのたび復活。グループワークでは皆さんで楽しく交流しながら、課題に取り組みました。

実技では拘束体験、CVPPPや一次救命処置などを行いました。新オリならではの貴重な実技体験を通して、講義の理解が深まったと思います。

二日間の講義の中で何回も出てきた病院の理念「患者様の不安をとること」はしっかり頭に入りましたね！新人の皆さんの活躍を期待しています。



タフマンVを頂きました！！

4月11日、西都ヤクルト販売株式会社様より、前回頂いたヤクルト同様、医療従事者をサポートしたいという思いから「タフマンV」600本をプレゼントして頂きました。このような温かいご支援を頂き、大変嬉しく思います。当院からは、感謝の気持ちを込めて感謝状を渡させて頂きました。頂いた「タフマンV」を飲んで、元気チャージして頑張ります！



病棟師長交代のお知らせ

A2病棟 副看護部長・師長 渡邊 千恵

この度、5月よりA2病棟に異動となりました渡邊です。

A2病棟には、2013年10月～4年間勤務した後、内科病棟、急性期病棟を経て、また今回お世話になることになりました。アルコール治療病棟として、多職種の皆さんと共に考え、医療を提供していきますので今後ともよろしくお願い致します。

南2病棟 師長 神山 裕太

5月よりA2病棟から急性期病棟に異動となりました。

A2病棟では、アルコール依存症看護、身体合併症の看護を中心に病棟師長として関わっていました。

急性期病棟に異動となり、病棟師長として患者様が安心した治療環境を整え、活気ある病棟を今以上に盛り上げていきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。



編集後記

久々に渋谷に行った。どこに何があるのか迷う羽目に。渋谷スクランブルスクエア・・・新宿に高層ビルが以前から多くあるのに、渋谷に少ないはない理由とは？ 新宿は、氷河時代の最盛期（2万年前）から海から顔を出していた（洪積という固い）台地にあり、渋谷は、氷河期に出来た谷であり、泥がたまって出来た（地盤が弱い沖積）低地である。弱い地盤にビルを建設するのには、技術とお金が掛かるとか。ますます都内とは無縁となり。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

